

ラッキー7 大いなる飛躍の年

校長 鹿倉朋宏

暖かな春を迎え、川沿いの桜は美しく咲き誇り、木々の芽吹きが映える希望あふれる季節となりました。本校は、平成29年度で開校7年目を迎えます。

今年度は、新たに小学部12名、中学部24名、高等部51名の仲間を迎え、小学部74名、中学部66名、高等部129名、計269名の子どもたちが共に学ぶことになりました。始業式で1学年進級した子どもたちは、新たな気持ちとこれからの学校生活への期待に満ちた表情でスタートしました。

また、入学式では小学部、中学部、高等部の87名の新入生も新たな学校生活への期待にあふれた引き締まった表情でした。それぞれの学部の子どもたちが本校のかけがえのない仲間の一員として、生き生きと学び、活動して大きくはばたいてほしいと願っております。

教職員はこのたびの人事異動により、松本隆男教頭が坂戸西高等学校、石岡正俊事務長が坂戸高等学校に異動されたほか、ご退職及び任期満了の職員が4名、転出職員が18名でございます。かわって、県教育局特別支援教育課より教頭として楠奥佳二（くすおくけいじ）、皆野高等学校より事務長として坪井陽子（つばいようこ）他21名の職員が新たに着任いたしました。「チームはばたき」の新たなメンバーとして、児童生徒の確かな成長を願い、保護者の皆様や地域の方々とともに努力してまいりますのでよろしくお願いたします。

さて、本校は今年度で開校7年目を迎えます。ラッキーセブンという言葉もある通り、7という数字は幸運をもたらす縁起のいい数字として定着しています。また、1週間の七日、虹の七色、七不思議、七福神、七草、七つ道具、音階のドレミファソラシも7つで1オクターブ、地球は7つの海と7つの大陸など、物事が段階を追って成り立ち、ひとつのまとまりや完了を示すと同時に、次の大いなる飛躍を意味する神秘的でパワフルな力をもつ数字といわれています。

今年度は、昨年に引き続き本校の成長期と捉え、開校から積み重ねてきた教育実践がひとつのおおきなまとまりとなって完成し、さらなる発展を進めていくための契機となる大切な年であると捉えています。開校から6年間、子どもたちの将来を見据えたキャリア教育の視点をふまえた授業づくりや教育課程の研究を進めてきたことにより、小学部から高等部までのつながりのある指導支援やキャリア教育についての意識拡大について確かな成果を収め、本校の教育実践の土台ができたといえます。

今年度より新たな研究テーマにもとづいてキャリア教育の充実を進めていきます。共生社会への加速度的な進展の中で、特別支援教育への期待がますます高まりつつある今後十分に受けられる教育力を発揮できるように、本校教職員一同あらためて意識を高く持ち、保護者や地域の皆様方とともに歩む特別支援学校として一層の発展を目指してまいります。よろしくお願いたします。